

# メルボルン日本人学校に赴任して

～特色ある教育活動の取り組み～



【派遣在外施設名：メルボルン日本人学校】

石岡市立東小学校 教諭 稲垣 美里

## 1 はじめに

メルボルン日本人学校は、メルボルン市内中心部から南東へ約10km離れたグレンアイラ市の閑静な住宅街に位置している。ビクトリア州政府による認可を受けた全日制の私立学校で、昭和61年に設立され、来年度開校30周年を迎える。教育方針として、「質の高い日本の教育」を目指し、「日本人としての自覚をもって国際社会を生きていくこころ豊かな子どもの育成」を教育目標に掲げている。メルボルン周辺に在住する日本人児童・生徒に対して、オーストラリアの現地校としての枠組みの中で、日本国憲法・教育基本法・学校教育法の趣旨に則し、学校指導要領に準じた幼児・初等・中等教育を推進している。平成26年11月現在、72名の幼児・児童・生徒が在籍。



## 2 実践内容 【特色ある教育活動】

### (1) 現地校との交流学习

現地の公立小学校・私立小学校とタームで2回ずつ定期的に交流機会を設けている。本校が訪問するだけではなく、相手先の児童・生徒も日本人学校を訪問する。現地校の児童・生徒は、第2外国語として日本語を学習しており、本校児童はESLや英語教育で学習している英語力を生かして、英語だけでコミュニケーションを図る。交流先の児童生徒にとっては、学習した日本語を話し、お互いに言語を学び合う事ができる貴重な場となっている。プログラムもESL教師と担任が協力して考えた内容や、交流先の先生方のアイデアを生かしたものなど日本の文化やオーストラリアの文化をうまく取り入れたアクティビティーをしている。定期的に行っているため、本校児童と交流先の児童の友好関係も広がっており、次の再会をお互いに楽しみにしている。



### (2) 現地の施設への社会科見学・校外学習・遠足

現地校との交流の他にも、社会科見学や校外学習等を通して現地理解教育を推進している。担任が

中心となって計画を練り、施設とコンタクトをとる。日本とは違い、オーストラリア特有の時間の流れ方があるため、前日も入念な確認が必要であった。

#### 【社会科見学・校外学習】

- ・Prep・G1・G2     メルボルン動物園，ランドコックスパーク
- ・G3                   スーパーマーケット（Coles），メルボルン州立博物館
- ・G4                   メルボルン消防署，メルボルン州立博物館
- ・G5                   TOYOTA自動車工場
- ・G6                   ビクトリア州議事堂

#### 【遠足・宿泊学習】

- ・G1・2・3           ストロベリーピッキング，チェリーピッキング
- ・G4・5・6           ビクトリア州内の宿泊施設でキャンプ（2泊3日）
- ・G7・8・9           ビクトリア州内の宿泊施設でキャンプ（3泊4日）



### (3) 英語教育の充実

#### ○ESL（第2言語としての英語）の授業

現地採用のネイティブの英語教師がきめ細やかな英語指導をしている。小学校低学年で週4時間、中学年・高学年で週5時間の授業がある。主に、Writing・Speaking・Reading・Listeningを行い、定期的にテストを行い児童・生徒の英語力を上げている。クラスも習熟度別に分けている。Readingは、一人ひとりのレベルと興味に合った読み物教材を使い、個別に指導している。Writingに関しては、現地校と同じ教材を活用し書く力を伸ばしている。

#### ○小学校高学年より教科としての「英語」の取り組み

ESLの授業とは別に、小学校5・6年にも特別のカリキュラムで英語の授業を行っている。

単語だけではなく、GrammarとReadingを中心に指導している。中学校で学習する内容を簡略化して指導しており、中学英語に向けての土台をつくっている。また、英検受験にも対応しており、高学年で英検準2・2級を合格する児童もいる。また、本校は英検受験支援（年2回）を行っているため、英検保持者の割合は全校で80%以上になっている。中学部の生徒にとっては、英検2級を取得してから帰国するのがステイタスになっている。



### (4) 確かな学力の定着

- ・小学校高学年より教科担任制の実施
- ・少人数によるきめ細やかな授業
- ・漢字検定・英語検定・中学部全国模試の実施

- ・ 課外活動の充実

- 月曜日：学習相談日…個別指導

- 火曜日：NC…本校に入学したての児童・生徒への英語の補修

- 水曜日：クラブ活動（小学部G3～・中学部）

- 金曜日：EC（英語の授業）

- ・ 日本の小中学校の1～2割増に当たる授業時数の確保。（下記資料参照）

| 学 年     |     | 小1    | 小2    | 小3    | 小4    | 小5    | 小6    | 中学校   | 年間授業<br>実施週 |
|---------|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------------|
| 日<br>本  | 年時数 | 850   | 910   | 945   | 980   | 980   | 980   | 1015  | 35週         |
|         | 週時数 | +68   | +10   | +35   | +35   | +35   | +35   | +35   |             |
|         |     | 24~26 | 26~27 | 27~28 | 28~29 | 28~29 | 28~29 | 29~30 |             |
| メル<br>校 | 年時数 | 1102  | 1102  | 1178  | 1178  | 1178  | 1178  | 1178  | 38週         |
|         | 週時数 | 29    | 29    | 31    | 31    | 31    | 31    | 31    |             |

曜日に関係なく、派遣教員は放課後の時間は児童・生徒の学習へのサポートにまわる。児童・生徒はみな学習意欲が高く、テスト前になると中学部生徒がこぞって聞きにくるため、列ができることもあった。

### (5) 日本文化の紹介

メルボルンは多民族国家であるため、各国のフェスティバルがいたる所で開催されている。日本人学校も日本人会主催のフェスティバル、「夏祭り」「ジャパンフェスティバル」に毎年参加し、パフォーマンスを披露している。



その他にも学校独自で「メル校デー」という学校祭を毎年9月に開催している。参加体験型授業の公開や児童生徒の作品展示、また保護者主催による日本の食

べ物の販売やバザー、児童生徒によるパフォーマンスや日本文化の紹介などを行っている。メルボルン在住の方々に日本の学校教育の様子とともに日本文化を紹介する、本校の一大イベントである。参加体験型授業では、派遣教員も自分たちの持ち味を生かし、授業をデザインする。体育の授業では、「柔道」「跳び箱・長縄跳び」「相撲」などを行ったりし、メルボルン在住の方々から好評をほくした。



相撲の時は日本相撲教会にご協力いただきメルボルンまでまいたため、音楽の授業を行い、和太鼓でリズムに親しんだり太鼓をつくったりし、日本の音楽を現地の子ども達に紹介したりした。メル校デーは、児童・生徒・教員・保護者が一丸となって取り組み、メルボルン在住の各国の方々が訪れ日本文化を紹介するよい機会になっている。

### 3 成果と課題

- ・ メルボルンにいながら、日本の教育が保障され少人数を生かしたきめ細かい学習指導を行っているため、本校の児童・生徒は高い学力をあげている。日本の学校の受験にも結果を残し、ほとんどの児童・生徒が希望校に入学している。また、保護者の学校への協力体制が厚く、様々な学校行事に意欲的に参加していただけるため、少ないスタッフでも運営することができ行事も成功させることができた。
- ・ 海外ということもあり、日本の教材が容易に手に入らないため教材研究の原点に立ち返り、既成の教材ではなく、ねらいあわせた教材を現地で調達し授業を工夫することができ、授業デザインの幅を広げることができた。
- ・ 多民族都市とうことで、メルボルンには日本人学校以外にも各国の学校が存在している。交流学习や訪問を通して、その国ならではの特色ある教育活動を肌で感じることもできたことは、何にも代え難い財産である。
- ・ 本校での ESL や英語教育、交流学习を通して、日本における外国語教育へ取り組みのヒントや様々なアクティビティーを知ることができた。
- ・ 現地採用のオーストラリア人の先生方やオーストラリアの方々との交流を通して、日本人として常識や価値観を押し通すのではなく、コミュニケーションを図り、理解を深めようと努力することが、英語を話す以上に大切であることを学んだ。また、日本人特有の優しさゆえのあいまいな表現は、誤解を生むこともある。時には自分の意志や思いを論理的に相手にぶつけることも必要であることを感じた。
- ・ 英語圏とうこともあり、現地校へ日本人の子弟が流れている現状がある。そのことにより、本来の学校の目的である「日本の教育の保障」が揺らぎつつある。児童生徒数を確保するために、現地の国際結婚家庭の子ども達も対象に加えたことにより、教育カリキュラムに少なからず影響が出ていることは否めない。

### 4 おわりに

美しい自然とぬけるような青空が広がるメルボルン日本人学校に赴任し、各都道府県から赴任された先生方並びにご家族、オーストラリアに住んでいる様々な方々に出会えた事に感謝したい。また、日本から遠く離れた土地で、明るく元気に頑張る児童・生徒たちの教育に携わることができたのは、私の財産である。今後は、オーストラリアの人々の考え方や文化、伝統や歴史を児童達に伝えるとともに、日本の伝統や歴史・文化も児童とともに発信していきたい。それこそが、国際社会を生き抜く児童を育成する、私の使命であると考えている。

